

みたか環境ひろば 第81号

令和4年10月1日号



環境連続講座「みんなで考えよう みたかのSDGs」 第2回「鴨志田農園で学ぶ 循環のしくみ」を開催しました！



★農園のたい肥を見学★

第2回環境連続講座は「鴨志田農園で学ぶ 循環のしくみ」と題し、家庭から出る生ごみをコンポストで堆肥化して畑に使用し、野菜栽培する循環型のプロジェクトを学ぶ講座を開催しました。コンポストとは、生活の中で出る生ごみを土と微生物の力で分解し、堆肥にする作業。もみ殻、米糠、落ち葉などを加えて「堆肥」を作り、適量の水を加えてかき混ぜる「切り返し」という作業を繰り返すことにより発酵を行い、生ごみを投入し分解させることで、ごみを出さずに循環型システムを生み出す。昔から伝承された日本の知恵です。

鴨志田純農園長は農園の6代目。コンポストアドバイザーとして、ネパールのティミ市を中心に生ごみ堆肥化と有機農業のシステム作りも行っており、最近では、熊本県南小国町の温泉地「黒川温泉」のコンポスト事業にはアドバイザーとして関わっており、農園では自家製完熟堆肥を用いて、三鷹の地に根ざした野菜を年間約40種類栽培しており、契約レストランの料理に合わせた野菜の栽培や個人向けの宅配事業を行っています。

SDGsの12番目「つくる責任 つかう責任」の目標にも沿った取り組みとして、年間契約の野菜販売とともに、各家庭から出てきた食品残さを農園で堆肥化し、また野菜を購入下さっている皆さんの野菜を作る堆肥に活用していくという、まさに循環型農業です。

今後は、地域のコミュニティーでコンポストを共有することで、地域全体でごみを減らす活動やコンポストとトイレを組み合わせる災害時にも使える仕組みなど、栽培という枠を超えて農業が社会公共性と結びついていくことが課題になると思います。（指田）

気候変動に対する取り組み

このところ世界各地で自然災害が発生し、甚大な被害を耳にするたびに、日々の生活を見直さなければいけないと強く思われます。SDGsの13番目は「気候変動に具体的な対策を」です。

対策のひとつは温室効果ガスの排出量を減らすことです。そのために節電は重要なポイントです。今年の夏は猛暑が続きエアコンの使用が欠かせませんでしたが、設定温度は室内温度が下がりすぎないように注意しましょう。この他、照明器具にはLEDを利用する、移動には徒歩や公共のバス、電車を利用する、食べ物や衣類など購入の際には無駄のない買い方をするなど、考えればまだまだたくさん出てきますね。

今後もこれまでの便利さにとらわれず、丁寧に考えて行動するよう、心がけていきたいと思います。（藤枝）



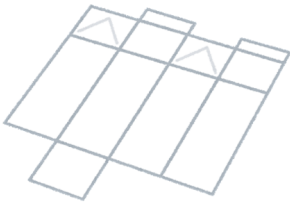
自然環境を守る



ふとテレビを視ていたら、ハワイのハナウマ湾の映像が流れていました。30年程前だったか、入場前にサンゴ・魚・海に生きるもの達の大切さや海岸でのマナーなど、自然を守る学習をして、入場料を払い海岸に行ったことを思い出しました。シュノーケルをつけ海に入ると、魚がツンツンと足を突いてきて、透明度が高いせいか、サンゴや魚の美しさに癒されたものです。新型コロナウイルス感染症により、ハワイでは長いこと観光客が来ない状況が続きました。これにより大勢の観光客が押し寄せたために汚れてしまった海が、昔のように透き通った海に戻ってきたとのこと。サンゴ礁の美しさ、大きい魚たちも戻ってきました。観光地としては大打撃だったのですが、自然を取り戻す大事な期間だったそうです。これまで3000人の入場者だったのを今では数百人に制限し、自然環境を守り続けるとのことです。今の環境保全への地道な行動が、次の世代の良い未来へ繋がってくれればと思います。（明田）



ひと手間のエコな暮らし



皆さんは自宅で飲み終わった、牛乳等の紙パックはどうされていますか？燃えるごみとして、そのまま捨てていませんか？紙パックはリサイクルできるのですが、その半分以上が捨てられており、さらにリサイクル回収率も年々減少しています。

飲み終わった後に、「洗って→開いて→乾かす」というひと手間の時間が無いから。洗う為の水道代を考えると本当にエコなのか。という意見もあるそうです。

リサイクルに出すことで、1ℓの紙パック6枚でトイレットペーパー1個分になります。また1ℓの紙パック1枚を焼却するのではなく、紙パックを1枚リサイクルすると、CO₂の削減、つまり地球温暖化の防止にも繋がってくるそうです。

忙しい毎日を送る私たちは、時間が無く無理と言ってしまいがちです。けれど今後の私たちの暮らしは、私たち一人ひとりの行動で変わります。まずは今日からでも始められる身近なことから環境にやさしい活動をしてみませんか？（中島）



編集後記

「形が悪いけど食べてくれる？」ご近所から獲れたての丸茄子、ミニトマト、キュウリ、シシトウをいただいた。コンポストで作った堆肥で育てられた野菜、新鮮でおいしい！コロナ禍で在宅ワークになり家庭菜園をする人が増えたと聞く。自然に触れ合うことは心を豊かにしてくれる。自分で育てたものは大切に食べる。家庭菜園ができなくても地元野菜を購入することは農家さんの応援にもなる。食の地産地消はごみ減量、食品ロス減、CO₂排出削減にもつながり、温暖化対策になる。サーキュラーシティー三鷹は夢ではない。（大谷内）

今回の発行は令和5年1月の予定です。

発行：みたか環境活動推進会議
(愛称 みんなの環境)

連絡先：三鷹市生活環境部環境政策課
電話：0422-29-9612

E-mail：kankyo@city.mitaka.lg.jp

本誌は、市役所、市政窓口、図書館、コミセンや市のHPから入手できます。